

# プロジェクト WET を学ぶ・使う



## 1日程度で学べるプロジェクト WET の手法

各地で開催される6時間以上の「エデュケーター講習会」を受講・修了するとエデュケーター（一般指導者）になることができます。講習会は18歳以上であればどなたでも受講できます。

学割・  
教職員割  
あり

**エデュケーター（一般指導者）**  
子どもたちにプロジェクト WET を利用した水教育を実践

エデュケーターとして一定の経験を積み STEP UP!

**ファシリテーター（上級・普及指導者）**  
一般指導者の資格をもち、さらに他の一般指導者を養成

### 国の人材認定等事業に登録されています。

日本において、プロジェクト WET は「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」第11条第1項に規定する人材認定等事業に登録されています（主務大臣：環境大臣、文部科学大臣、国土交通大臣）。



## アクティブ・ラーニングの要素を持つ講習会

講習会では、アクティビティ体験だけでなく、グループワークやプレゼンテーション等のトレーニングを行います。その過程で参加者自身のコミュニケーション能力、ファシリテーション能力の向上や問題解決能力等が磨かれます。いわば講習会自体がアクティブ・ラーニングの要素を持っています。

講習会は、日本全国で随時開催されています。  
最新情報は HP をご覧ください。



プロジェクト WET 検索

## 全国にいる指導者（講習会を開く・講師を探す）

全国には約9,000人のエデュケーター（一般指導者）、約300人のファシリテーター（上級・普及指導者）がいます。開催予定日、実施場所などお気軽にプロジェクト WET ジャパン事務局までご相談ください。



## 大学等の正規の授業で導入されています

これまでに教育学部等を中心として各地の大学・専門学校等19校が正規の授業で講習会を実施しています。

北海道教育大学、酪農学園大学、弘前大学、茨城大学、学習院女子大学、武蔵野大学、和光大学、東京農工大学、玉川大学、愛知教育大学、関西福祉大学、愛媛大学、久留米大学など



### 大学教員の声

「プロジェクト WET は専門知識を持たない、また理科系を苦手とする志望者に対しても有効な教材である」

「教科全般を担当する小学校教員であれば、このような教科横断型の教育ツールは様々な教科に応用できる」

より詳しく内容をご覧になりたい方に、6種類のアクティビティが掲載されている、「サンプラー（見本版）」の販売も行っていきます。（HPをご覧ください）

ガイドブック「サンプラー（見本版）」



# アクティブ・ラーニング型 国際水教育プログラム

# プロジェクト WET

Water  
Education  
Today



体験学習、グループ学習、  
ロールプレイング、ディベート、  
プレゼンテーションなど  
様々な手法が盛りだくさん。



project WET  
WATER EDUCATION TODAY

世界75以上の  
国と地域で展開中

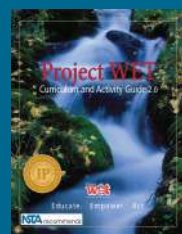


## アクティブ・ラーニングの視点を持つ ワールドワイドの水教育ツール

### 「主体的・対話的で深い学び」が得られる工夫

次期学習指導要領に関する目玉の一つ「主体的・対話的で深い学び」の実現（「アクティブ・ラーニング」の視点）に代表されるように、今後教育界では「何が出来るようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」がさらに重要視されるようになります。

「アクティブ・ラーニング先進国」である米国で開発されたプロジェクト WET(Water Education for Teachers) は、理科や社会科等様々な教科を対象として、グループによるディベート、ロールプレイング、シミュレーション、実験、調査、実演などの指導方法を用いた水教育のノウハウがパッケージ化されたプログラムで、「主体的・対話的で深い学び」が得られるよう様々な工夫がされています。



**プロジェクト WET ガイドブック**  
水の衛生、水の利用、水の特性、水循環、地下水、河川、流域、水防災、文化等、水に関する様々なテーマを対象



日本語、アラビア語、フランス語、ハンガリー語、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語等多言語に翻訳されている。



(写真：プロジェクト WET 財団 HP より)

## 活用例と 「アクション・エデュケーション」

プロジェクト WET では「行動と解決へ導く認識と教育」として「アクション・エデュケーション (Action Education™)」を提唱しています。

「アクション・エデュケーション」はそれぞれの地域での水問題を取り上げ、積極的に対処し、的確な行動を起こすために必要な知識を提供し、学ぼうとする人の助けになるように考えられた教育活動を指しています。プロジェクト WET には、得た知識を地域にとって意味のある改革をもたらすために応用するきっかけとなるような工夫がされています。

プロジェクト WET では「体験型の水教育」を通じ、これからの時代に求められる資質・能力の向上と持続可能な未来に向け、すべての子どもたちに水とその価値について考えてもらう世界の実現を目指しています。



各国のプロジェクト WET 関係者

### プロジェクト WET 財団 (米国モンタナ州)

近年、NASA や国連の専門機関の一つ世界気象機構 (WMO)、米国ナショナル・ウォーターズやリーバイス、エコラボ等の企業や団体と連携してプログラムを開発。2013 年の The Global Journal が選ぶ世界の NGO トップ 100 に選出。

### プロジェクト WET の歴史

- 1984 年米国 ノースダコタ州水委員会によって創設
- 米国内務省開拓局の資金でモンタナ州立大学を中心に他の州そして全米へと展開
- 2005 年に設立されたプロジェクト WET 財団により、世界 66 以上の国と地域に展開中

- 日本においては 2003 年より (公財) 河川財団がプロジェクト WET ジャパンとして活動



### 文部科学省スーパーグローバルハイスクール (SGH) 指定校の 静岡県立三島北高校

同校では地域課題であり世界的課題でもある「安全な水の確保」をテーマに大学・企業と連携して開発したプログラムによって、社会課題をグローバルな視点から解決できる人材を育成することを目標としています。

過年度は「私たちの生活と水」をテーマに水循環を学ぶプロジェクト WET「ブルトラベラー」及び地下水汚染を学ぶ「重大な過ち」を実施。国際プログラムの特性を活かし、扱うワークシート等はすべて英語で記載された教材を使用しました。

その後、各自が地域の水問題について課題を設定し追求するという「アクション・エデュケーション」につながる活動へと発展させています。

## 授業等で使える 100 近くの豊富なアクティビティ

プロジェクト WET には「理科」や「社会科」、「体育科・保健体育科」等、様々な教科に関連するアクティビティがあります。



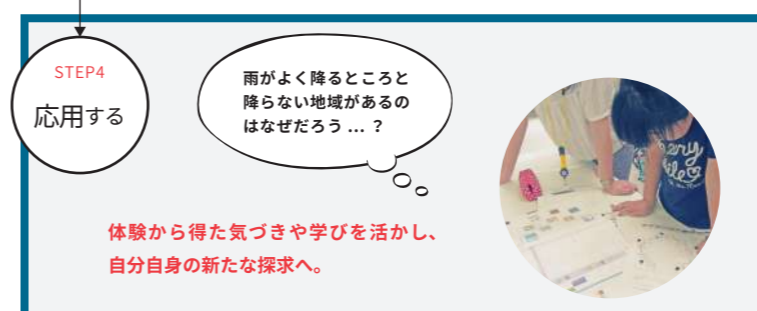
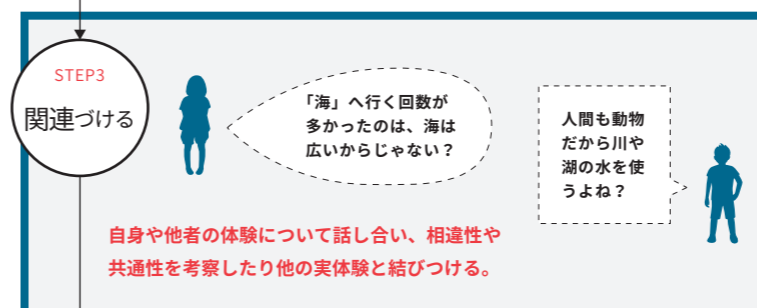
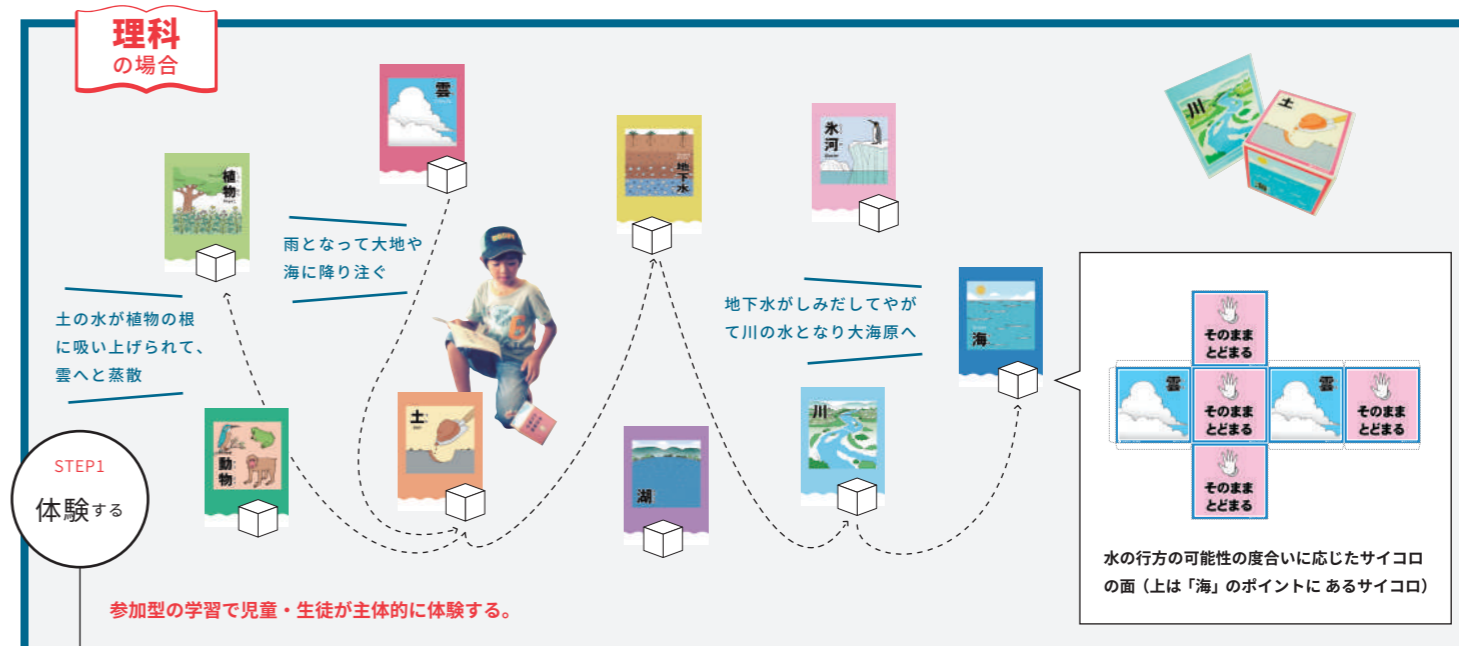
アクティビティ例

### 驚異の旅

子どもたちが、水の分子となってサイコロを転がし、すごろくのように地球上の水循環を体験。アクティビティを通じて私たちと水との関係を学びます。

関連する主な単元

小学校 | 社会 | 3・4 学年 | 生活に必要な飲料水  
中学校 | 理科 | 第 2 分野 | 気象とその変化 | 霧や雲の発生



### 【評価の例】

- 水の循環に関心を持ち、大気と地表の間の水の循環の関係を活動を通して探求することができたか。【自然現象への関心・意欲・態度】
- 自分が体験した水の循環について発表することができる。【観察・実験の技能・表現 (言語活動)】
- 大気と地表の間の水の循環を太陽エネルギーや気象現象と関連づけながら考察し、説明することができる。【科学的な思考、自然現象についての知識・理解】

(「プロジェクト WET 学校カリキュラム適合事例集」北海道滝上町立滝上中学校事例より抜粋)

他の代表的な  
アクティビティ

### 社会 の場合



塵もつもれば

川に面した土地を開発し、私たちの日々の生活が川に与える影響を考えます。

関連する主な単元

小学校 | 社会 | 5 学年 | 国民の健康や生活環境